

ケアするローカル研究所 in くるめ さようならだよ！成果報告の巻
(ケアするローカル研究所 in くるめ DAY5 開催レポート)



久留米の地域福祉に関わる（関わりたい）みなさんと一緒に続けてきたケアの旅路もいよいよ最終回。「ケアするローカル研究所 in くるめ」のDAY5では、各講座での学びの共有とそれぞれのチームで行ってきた活動の振り返りプレゼンテーションを行いました。今回はその内容についてご紹介します。

と、その前に今回の会場のご説明から。この日は「久留米ガス」さんの本社の一隅にあるスペースが会場でした。このスペースの企画／立ち上げに関わった担当の廣木さんは「フラットとイベントや展示に遊びにきてくださった方が、たまたまガスの製品を目に留めるという状況で久留米ガスのことを知ってくれればうれしいなと思い、つくりました。もちろん商品の購入につながればさらにありがたいですが、公益的・公共的な活動を応援したいと思っているので、みなさんのような方にはぜひ活用いただきたい」とお話しされていました。



久留米ガスの廣木さんもケアするローカル研究所の研究者として、最初から最後まで継続的に参加してくださっていました！感激！

最近では、営利企業が公共的な活動に対して応援・協力するという機運が生まれていて、筆者としては大変素敵なことだと感じています。もちろん、営業や売上にどうつなげていくのかという話は内部でいろいろと大変だと思うのですが、自社の経済合理性だけではない公共的なスタンスや地域貢献のあり方が模索されている時代に突入しているのは确实だと思われ
ます。



机もイスもプロジェクターも間仕切りのあるスペースも。
さまざまな設備が整っていました。久留米ガス、すごい、

では、DAY5までに各自（チーム）が取り組んできた内容を紹介します。まずは、ナンパーソンカードチームから。

いろいろ、よりどりみどりの活動をご紹介します！

①ナンパーソンカードチーム

そもそも「ナンパーソン」という概念が生まれたのは、DAY2で話題提供をしてくださった社会福祉協議会の岡さんの発言から。地域福祉の活動を手伝ってくれる方をどんどん「ナンパ」し、巻き込むことで「ナンパーソン」になるというお話をしてくださったという裏側があります。そこから、その「ナンパーソン」をカードにすることで可視化し、楽しく地域やケアについて考えてもらうきっかけにできれば、ということでナンパーソンチームが立ち上がりました。



実際にデザインを入れたカードをつくったそう。おせっかい力やトーク力が星の数で示されていました。

しかし、紆余曲折あり（地域での活動ではよくあることでもあるかと思いますが）、解散の危機もあったナンバーソンカードチーム。ですが、途中でチームを再構築して持ち直したそうです。最終的には、3月8日（日）に久留米市社会福祉協議会で開催された「ボランティアフェスティバル（通称：ボラフェス）」にコンテンツを出展することができました。

「ボラフェス」では、イベント会場に散りばめられた「ナンバーソン」カードを見つけ、出されたお題に対してカードに書かれた必殺技を使ってクリアする、というミッション解決型のゲームを参加者に体験してもらったそう。かなり子どもたちの参加があったようで、運営一同驚きだった、とお話しされていました。

②まちにひそむケアをさがすチーム

こちらのチームはその名の通りまちに隠れた、あるいは地域にひそむ「普段なら見過ごしてしまいそうな誰かの思いやりや想像力（＝ケア）」に思いを馳せてみよう、ということに興味にしたプロジェクト。

期間中、参加メンバーで毎週写真を撮りあって、合計60枚以上の写真を集めました。今回はその写真をまとめてショートムービーをつくったり、写真集を制作したりしました。最終成果物はナンバーソンカードと同じく「ボラフェス」で展示・設置しました。

関わっていたメンバーは「普段なら見過ごしていたものをじっくり丁寧に見つめることができた。すでにそこにあるケアを見つけるまなざしを育むことができるとてもいい機会になった」というコメントが。



活動報告をするメンバーのかれんさん。手前にあるボードは上記の写真集や映像がどのような背景で生まれたのかを「ボラフェス」で紹介するためのボード。

また、別のメンバーからは「週に一度写真を撮る、ということで参加できたのでとても参加しやすかった。ハードル低く参加することができるというのもこのチームのよいポイントであったと思う」という発言もありました。

③かんちゃんと一緒に！チーム

車椅子ユーザーのかんたくん（とさんちゃん）を筆頭にした「食」に関連するチームがこのチーム。どういふところからはじめようか？という議論もありましたが、最終的には久留米市内の「子ども食堂」の情報をまとめてマップにすること、また関西にある「[かわひー先生のたこ焼き屋さん](#)」のリサーチをすることで着地しました。



ちよっとさんちゃん（犬）が隠れてしまっていますが。かんちゃんとさんちゃんはいつも一緒です。

さすが、デザイナーであり、イラストレーターのかんちゃん。美しく資料をまとめていました。市役所が持っている情報と社会福祉協議会が持っている情報を組み合わせて子ども食堂マップをつくったとのこと。今後も使えるモノになりそう！

④フクフェスチーム

毎年（昨年から）2月9日に開催している「フク（2/9・福・吹く）フェス」。今年は日曜日に開催するため2月8日の開催になりました。「フクフェス」は左に書いているように、「2月9日（ふく）」という意味、「福」祉にまつわる企画という意味、最後にシャボン玉をみんなで「吹く」という意味、それらの意味が重なった企画です。久留米市内で叶え合う支援（一方的なする／されるではない支援やケア）を進めているAU-formal実行委員会のみなさんと一緒に、ケアするローカル研究所のメンバーも参画してイベントの内容を考えていきました。



久留米市外から足繁く久留米に通ってくださった参加者の緒方さん。
発表も制限時間ぴったりで素晴らしかったです！

当日は圧倒的な寒さに見舞われましたが、さまざまなブース出展や手話歌など、いろいろなコンテンツで参加者が混ざり合う時間を生み出した模様。当日現地参加していたメンバーからは「あー、これが地域福祉的な風景なんだなと感じました」という発言も。ちなみにシャボン玉は2:09（フクの時間）に吹いたそうです。こだわりポイント。

⑤舞来祭チーム

研究員メンバーと一緒に進めてきた企画ではありませんでしたが、参加者の北里さんが「舞来祭」という企画を開催する、という案内もありました。



舞来祭のメインビジュアル。久留米市内の大型スペース六角堂広場で開催されるようです。

社会福祉を学ぶ大学生を中心としたメンバーが企画をしており、地域も巻き込みつつ開催するそう。バリアフリーなコンテンツや運営にもチャレンジしているそうなので、関心のある方はぜひ行って見ては？

⑥ボラフェスアップデートチーム

そう、おおよそすべての活動が最終的に関わる、いや巻き込まれることになったチーム、それがボラフェスアップデートチーム。進めていたのは「ナンパ」で有名な久留米市社会福祉協議会の岡さんです。そう、彼女しかいません。いやはや、ケアするローカル研究所の研究者もほぼ岡さんにナンパされてしまうとは、

そういうこともあり、50回ほど続くボラフェス（大変老舗のイベントなんですね）に今回大きく新しい風が吹きました。関係者によると今回のボラフェス、例年よりも倍近い参加者が集まったそうで、関係者一同驚きでいっぱいだったそう。ナンパ、そしてナンバーソンの威力が凄まじかったのですね。

岡さんも非常に満足だったようで、キャピキャピしながら成果報告してくださいました！



キャピキャピの岡さん。尊い。

円になってみんなでクロージング

最後は、今回のプログラムでの学びを振り返りつつ、円になってみんなでお話します。



地域福祉課担当課長の下津浦さんにもっこり。
どんどん広がっていく活動とみなさんの熱量が素敵だったとお話しされていました。

「最初は不安な中参加したし、ぶっちゃけ業務の一環でと思っていたが、徐々に面白くなって行って、充実した時間を過ごすことができた」

「最近、自分の中にあっさりさみしいという気持ちに気づいて、それを共有することができた。自分を認めるということもケアなのかもしれない」

「市役所ってこういうものだ、というイメージが自分の中にあった。でも今回の講座や活動を通してそのイメージが変わった。一人ひとりの人が見えて、すごく安心できたし、信頼できたと思う」

「多様な世代、属性の人たちがこうやって集まって、熱心に平日の夜に学び合い、語り合っているという状態がそもそもすごい。このようなケア的な風景が久留米に広がっていけば素敵」

「市役所の勉強会だからと言って、夫に子どもを預けて参加していた。市役所の、というのが公式な感じがして、自分も罪悪感なく出てくることができた。これもケアだった」

など、本当にたくさんのコメントをいただきました。心なしか、うるっとしている方も数名いたようないなかったような。



他のメンバーが話している内容に聞き入るメンバー。対話って美しいですね。

みなさんと進めてきた「ケアするローカル研究所 in くるめ」も、今年度の開催はこれにて終了。来年度はどのような形での実施になるのでしょうか。またぜひみなさんとお会いできる機会を楽しみにしています。



集合写真をみんなでパシャリ。参加できなかった方には申し訳ありません。とても素敵な時間でした！